



こんにちは 府會議員

さこ祐仁

活動報告

2007年12月30日発行 No.52
連絡先：千本出水下がる
十四軒町392 さこ祐仁事務所
Tel.813-2117

◎さこ駆け歩き

12月22、23、24日と上京区全学区リレークリスマス宣伝が行われ、私も宣伝参加しました。

22日(土)は雨の中、新日本婦人の会のみなさんが頑張っていました。本当に寒い中「国保を下げるためにも市政の刷新を中村和雄で！」訴えられている姿に頭が下がりました。

23日(日)は雨も上がり暖かい中で宣伝ができました。ご近所の方から「ハウディ前で、訴えていましたね。市長選勝ってほしいですね」「大変でしょうが頑張ってください」と励ましのお言葉をいただきました。

24日(月)は北野商店街、上七軒で訴えました。宣伝カーの「お～い、中村くん」テープが意表をつく感じで子どもの受けがよいです。しかし、地域のかたを訪問すると、市長選挙があることを知らないかたが多いのにびっくりしました。いまの政治への怒りは大いにあるが、その怒りを市長選挙・中村和雄さんへ、という訴えをもっとひろげなければと感じました。

(写真は堀川下立売フレスコ前にて)



「中村市長の誕生で、国保引き下げ・保険証の取り上げストップを」の声を大きくひろげましょう。

国保署名には上京から1万2千筆、京都市全体では17万筆が寄せられました。

国保料値下げを求める署名は、上京区から約1万2千筆、京都市全体では17万筆が寄せられ、先日提出をされました。一方で、京都市長選では自民党と民主党が「大連立」を組んで、現市長直系で同和言いなり行政・学校格差を推進してきた人物を候補者に担ぎ出しました。いま全国で「相乗り・大連立」しがらみ・庁内候補への批判が強くなっている中、京都市だけが背を向けて、市民の願いそっちのけ、政党の組み合わせだけで候補者を決めているのでしょうか? 「国保料引き下げ・保険証の取り上げストップ」は中村市長の実現で「の声をひろげる先頭に立ちたいと決意しています。」

わたしは、共産党府會議員団の原油高騰対策本部事務局長として、地元西陣はもとより友禅やガソリン業者、運送業者、銭湯、クリーニング店、飲食店

等に直接足を運び、「値上げ分を価格に上乗せできず、営業を続けられない」「このままでは自殺者も出るのでは・・・」等の深刻な実態を調査してきました。京都市府に対して ▼セーフティーネット保証の対象業者を広げるよう国に求め、あんしん借換融資利用に道を広げること ▼融資返済の条件変更をしても、以後借入れに不利にならない制度をつくること ▼低金利の緊急融資制度の創設 等の実施を求めてきました。

私たちの論戦と国民の運動により借換融資の対象が拡大されました。12月18日付けで建設関連業種のほかに、原油価格高騰の影響を受けている染色関係やクリーニング業等も合わせて追加指定されました。和装業界の仕事づくりとして「巧みの技継承事業」「同活用型事業」が12月補正で実現しました。来

年、「源氏物語千年紀」を迎えるにあたり、京都の伝統産業の技を全国に発信し、その技を継承する目的で予算化されました。これも、府の事業の継続を求めてきた、日本共産党府會議員団の論戦と伝統産業に従事する業者、労働者の運動の成果といえます。しかし、現実はこの事業を活用できる方が現代の名工といわれる人が中心なでもっと多くのグループなどが活用できるように働きかけることが必要です。しかも上京区は源氏物語につながる地域が多いだけに予算をもっと増やす運動が求められています。

いま西陣地域を回ると、「たけうち」問題の影響がまだあり、帯の生産が減少、どの行程でも仕事がないという現状があります。府による仕事づくりの規模をより拡大し、困っている業者や従事者に、十分仕事が回るように議会でも奮闘していきます。